

令和3年度 学校評価シート

和歌山県立紀伊コスモス支援学校	学校長名	加山 千裕
-----------------	------	-------

めざす学校像 育てたい生徒像	共生社会の中でよりよく豊かに生きる人間を育成するため、児童生徒一人ひとりの個性や障害の実態をしっかりと把握し、将来を見通した系統性のある教育を進める。
本年度の重点目標	1 個性や障害に応じた学習や体験活動を通して、生きる力をはぐくむ教育を進める
(学校の課題に即し、精選した上で、具体的かつ明確に記入する)	2 キャリア教育の充実を図り、自立に向け必要な基盤となる能力の育成を図る
	3 児童生徒の健康の増進及び学校安全の徹底を図る
	4 開かれた学校づくりを進めるとともに地域における特別支援教育の推進を図る

中期的な目標	新型コロナウイルス感染症対応を意識した新しい生活様式のもと、充実した学校生活としての取組の構築 ICT活用を効果的に進めた授業作り 新型コロナウイルス感染症対策に万全を期すとともに安全な医療的ケアの実施を含めた学校安全の推進
学校評価の結果と改善方法の公表の方法	育友会役員会、学校運営協議会等を通じて自己評価及び学校関係者評価の結果について公表する。また、本校ホームページ上に記載するものとする。

達成度	A	十分に達成した。(80%以上)
	B	概ね達成した。(60%以上)
	C	あまり十分でない。(40%以上)
	D	不十分である。(40%未満)

(注) 1 重点目標は3～4つ程度設定し、それらに対応した評価項目を設定する。 2 番号欄には、重点目標の番号を記入する。 3 評価項目に対応した具体的取組と評価指標を設定する。
4 年度評価は、年度末(3月)に実施した結果を記載する。 5 学校関係者評価は、自己評価の結果を踏まえて評価を行う。

自 己 評 価					年 度 評 価 (2 月 8 日 現 在)		
重 点 目 標							
番 号	現 状 と 課 題	評 価 項 目	具 体 的 取 組	評 価 指 標	評 価 項 目 の 達 成	達 成 度	次 年 度 へ の 課 題 と 改 善 方 策
1	新型コロナウイルス感染症対策を十分に意識しながら、工夫した授業作りを実施している。さらに個々の児童生徒の実態把握を丁寧に行い、ICT活用等を十分に推進しながら、一人一人に応じた主体的な学びの保証を模索すべく、さまざまな研修及び協議に取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> 個々に主体的かつ能動的な授業づくりができてきているか。 教育課程の議論の到達点を踏まえ、教育計画等の見直しが行われているか。 ICT等、効果的に活用されているか。 初任者や若手教員の育成が図られているか。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校全体で、年間指導計画、単元計画、授業づくり、授業改善の取組を進めるとともに、指導力向上のための研修会を開催する。 自立活動研修を実施し、充実を図る。 ICT活用に関して研修会を数回開催し、ICTを活用した授業作りを進める。 双方向のオンライン授業が可能となる仕組みを構築する。 若手教員を対象とした研修会を開催する。 	<ul style="list-style-type: none"> 校内授業研の開催(10回) 授業づくりに係る研修会(1回) 実態把握、アセスメント等研修会(5回) 自立活動研修(2回) ICT研修(3回) 年間の授業時間数の20%でICTが活用されている。 オンライン授業に係るチューターを各学部で3名以上養成する。 若手教員対象の研修会(10回) 地域諸学校の授業見学(3回) 	➡ 10回 ➡ 1回 ➡ 7回 ➡ 2回 ➡ 3回 満たしている	A	地域の新型コロナウイルス感染症の拡大が複数回あり、さまざまな行事が変更・中止となったが、ICTの活用を中心的な課題とし、研修を進め、交流学习等において活用できた。また、実態把握のアセスメント研修や主体性を引き出す授業づくりの研修について取組を進めた。ICT活用は、子供に応じた活用や家庭との連携についてさらに研鑽が必要である。
2	日常的に、児童生徒の実態に応じたキャリア教育の推進に取り組んできている。今年度は、さらに、主体性を軸とした将来を見据えたキャリア教育の推進に取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> 将来を見通した取組としての授業が実施されているか。 感性を磨き、創造力を豊かにする取組が進められているか。 自己有用感や就労への意識が向上する取組が進められているか。 	<ul style="list-style-type: none"> 読書教育の充実を図る。 さまざまな観点より、情報教育を推進する。 学校全体として系統性のある進路学習を実施する。 校内技能検定、ボランティア活動や現場実習を通してキャリア発達を促す取組を充実させる。 関係機関と連携し、卒業生の就労支援の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 読書環境アセスメント報告(年度末) 情報教育に係る研修(2回) 進路に係る説明会(6回) 作業製品の販売活動年(5回) 地域ボランティア活動(年3回) 校内技能検定開催(1回) アビリンピック参加者(5名以上) 新規の職場開拓(5社以上) 一般就労希望者の就労率(80%～) 事業所等懇談会の開催(1回) 	検討中 各学部にて開催 ➡ 5回 ➡ 5回 ➡ 12回(訪問1回) ➡ 1回 ➡ 4名 ➡ 6社 ➡ 67%(4/6) ➡ 1回	A	キャリア教育を重点課題とした授業づくりを各学部で行った。小学部は夏祭り、中学部は中学部横丁、高等部は地域への活動や製品販売の他、作業班毎のワークショップにより地域の人との関わりを深めた。また、紀の国わかやま総合文化祭や校内技能検定でも役割を意識した活動となった。特別活動だけでなく、日頃の教科指導等においてもキャリアの視点による学校づくりを進めていく必要がある。
3	分掌部や各種委員会を中心に、健康教育や医療的ケア、防災教育等、学校安全に関する取組を整えてきている。職員の危機管理意識の向上及び外部機関との連携を図りながら、さらに児童生徒の健康安全に関する取組を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> 関係機関と連携し児童生徒の健康の増進及び安全な医療的ケアの実施が行われているか。 職員に学校安全の推進に必要な知識技能、意識が備わっているか。 いじめや不登校に関する取組が適切に進められているか。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒の健康安全について関係機関と連携した対応を行う。 ヒヤリハット報告や危機管理の啓発を通して、日常的な意識の高揚を図る。 肢体不自由教育や摂食に関する取組をより充実させる。 感染症対策や学校安全に関する研修会を実施する。 人権研修及びいじめ・関わり方アンケートを実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 医ケア委員会の開催(8回)(内、医療関係者を招聘して2回以上開催) 医ケア研修(2回) 緊急時対応研修(2回) 肢体不自由教育研修(1回) 摂食事例研修(2回) 学校保健安全委員会(5回以上) 人権教育研修(1回) いじめアンケート(3回) 関わり方アンケート(2回) 	➡ 11回(1回) ➡ 1回(1回は中止) ➡ 2回 ➡ 3回 ➡ 2回 ➡ 5回 ➡ 1回 ➡ 3回 ➡ 2回	B	各種委員会において、個々の児童生徒のカンファレンス開催や関係機関の方との会議等も開催した。防災についての協議も含め、保健安全に係る種々の研修・調査も実施することで意識を高めた。生徒指導については、問題行動の分析や保護者との連携等について、他機関と連携しつつ継続した取組が必要である。
4	地域・家庭との連携・協働により「社会に開かれた教育課程」を実現する取組を推進してきている。引き続き充実させるとともに、センター的機能として、地域の諸学校との連携を深めると共に地域のニーズに応じた相談活動や研修会開催の取組を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> 社会との繋がりを踏まえ、協働する仕組みが整備されているか。 センター的機能の発揮と係わって地域の役割期待を果たせているか。 児童生徒の卒業後の生活を見据え、地域での活動が進められているか。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校運営協議会に学校課題に応じた部会を設置し、チーム学校としての取組を推進する。つくし医療・福祉センターとの連携を進める。 地域の学校のニーズに応じた相談活動や特別支援教育の発信を行う。 居住地校交流や地域の学校との交流を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 各部会の開催2回以上 つくし連絡協議会の開催(2回) 地域の学校からの相談件数30件以上 地域の教員を対象とした研修会(1回) 公開授業・公開研の開催(2回) 地域等連絡協議会への参加(3回) 居住地校交流 地域主催の作品展示会への参加 紀の国わかやま文化祭への参加(1回) 	ほぼ達成している ➡ 2回 ➡ 34件 ➡ 1回(web配信) ➡ 1回(web配信) ➡ 14回 ➡ (小)44名 ➡ 2回 ➡ 1回	A	それぞれの部会は、参加者数が増えたものもあり、充実した取組となっている。センター的機能として継続した相談も増加してきている。公開研は、オンライン配信の取組として多数の申し込みがあった。コロナ禍の中、さまざまな取組を継続していくためのICT活用などが今後の課題である。

学 校 関 係 者 評 価
令和4年 2月16日 実施
学校関係者からの意見・要望・評価等
<p>学校運営協議会委員からは、新型コロナウイルス感染症拡大の中、さまざまなことに取り組んで来れたところが素晴らしいという評価を複数の方からの意見としていただいた。授業研や授業づくり、公開研のYouTube配信、校内技能検定など工夫して、児童生徒のために取組を進められていると好評であった。その中で、校内技能検定の審査員であった委員からは、「毎年個々の生徒の能力は上がってきているが、マニュアルにないことが起こったときの対応などの工夫が今後必要では？」という指摘を受けた。また、さらに進めていくべき内容として、社会がどんどん変化している中で、学校でのICT活用を通して将来の社会参加につなげていけるよう取り組むことの必要性を示唆いただいた。</p> <p>保護者の方からは、コロナ禍の中、常に児童生徒の状況を把握しながら、さまざまな行事の工夫や一人一人に対して熱心な取組をしていることへの評価とともに、全ての児童生徒が安心して楽しく学校生活を送ること、さまざまな場面での心のケアを丁寧に実施していくことや、学年や学部が変わるときに丁寧な引き継ぎをしていくことについての要望や意見をいただいた。</p>